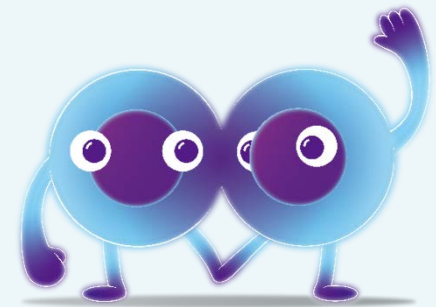


「患者・市民と考える再生医療」
～ 再生医療のコミュニケーションを考える ～

2022年7月16日(土)

【第2部】講演資料①

一般社団法人日本再生医療学会 事務局長
眞野恭輔



二次利用など資料の取り扱いには十分ご注意ください

日本再生医療学会の社会への働きかけ

2022年7月16日

眞野恭輔

一般社団法人日本再生医療学会

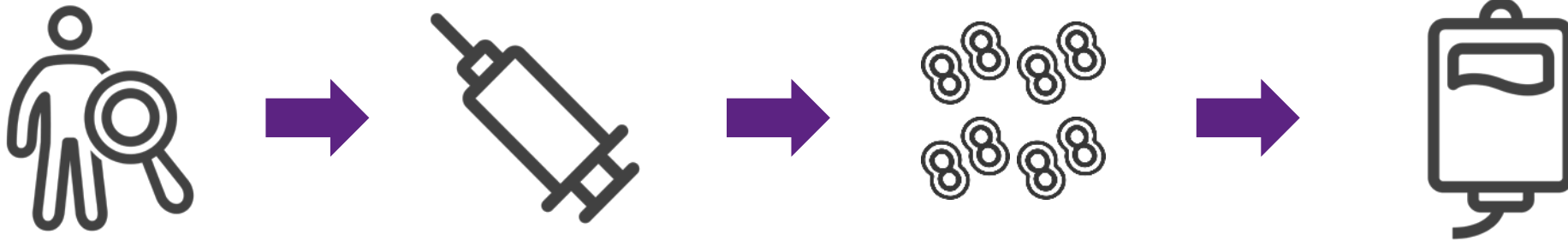
学会とはどんな組織か



- 会員（科学者）による会費で運営されている、特定の学問分野に関する知見交換のためのコミュニティである。
- 一般的な学会の活動は、年次の学術集会の開催と会員相互の査読による論文誌の刊行の2つからなる。

「学会（がっかい）とは、学問や研究の従事者らが、自己の研究成果を公開発表し、その科学的妥当性をオープンな場で検討論議する場である。また同時に、査読、研究発表会、講演会、学会誌、学術論文誌などの研究成果の発表の場を提供する業務や、研究者同士の交流などの役目も果たす機関でもある。」（Wikipediaより）

日本再生医療学会が社会への働きかけを行う理由



- 再生医療という医療技術はまだ発展の途上であり、医師の裁量の下、科学的根拠が十分に確立されていない治療が行われる可能性がある。
- 再生医療では一般的な標準治療と異なり、患者の選択による治療内容への影響が大きく、患者自身の判断の支援が必要な状況にある。
- 非科学的な再生医療の提供により患者が不利益を被った場合、社会的なインパクトにより再生医療の研究開発全体が滞る可能性がある。

日本再生医療学会の社会に向けた広報活動



- ウェブサイト「再生医療ポータル」の運営
- 市民公開講座（学術集会に併催）・対話型イベント
- 記者会見
- Twitter、Facebookを通じたSNS活動

研究者同士の情報交換を基礎とする「学会」においては、対外的な活動に使える予算に限界がある。

画像提供：ピクスタ

再生医療の社会実装に必要なこと

- 安全で有効な技術が確立され、患者に選択され続けること。
- 正確な理解に基づいた選択を支える、十分な説明や、患者側のリテラシーが整っていること。
- 患者側の知識不足を利用して、安全性や有効性が不十分な治療を提供する自由診療機関が淘汰されること。
- 再生医療という発展途上の技術に対して、批判的な視点が浸透し、安全で有効な技術を見極めるための判断基準があること。

